

One Point Data

ワンポイント・データ

移植体験者のインタビューがご覧いただけます

日本臓器移植ネットワークのホームページにある、映像ギャラリーで、移植体験者のインタビューを掲載しています。

移植を体験した方々の現在の生活や、ドナーへの想いが語られています。ぜひご覧ください。

<http://www.jotnw.or.jp/gallery/index.html>


移植体験者のインタビュー

<p>腎臓移植経験者 野口明吉さん</p>  <p>腎臓移植経験者：野口明吉さん (5分48秒) 「元気になってくれる人がいっぱいいたら幸せじゃないですか。」</p>	<p>肺移植経験者 板垣志郎さん</p>  <p>肺移植経験者：板垣志郎さん (5分48秒) 「毎日笑顔で元気に過ごすことが、ドナーに報いる唯一のことかな。」</p>	<p>肺腎同時移植経験者 加藤みゆきさん</p>  <p>肺腎同時移植経験者：加藤みゆきさん (4分40秒) 「わが子のように愛おしくて、肺臓移植、今日も一日がんばろうね。」</p>
---	---	---

映像ギャラリーでは、臓器移植を解説した15分の映像や、臓器移植を題材としたのちの教育について教育者を対象に行われた教育セミナーの様子、公共機関で放映いただけるCM映像等もダウンロードすることができます。

◆臓器移植解説映像


日本の移植事情を解説した映像です。学校や医療機関の講義などでご活用ください。
[15分15秒]



臓器移植解説映像
学校の授業や病院での勉強会などでご活用ください。

◆運転免許証への意思表示

運転免許証の裏面の意思表示欄への認知・記入の促進啓発映像です。【各15秒】




運転免許証への意思表示

運転免許センターや自動車教習所のモニターで放映しています。

◆保険証への意思表示

保険証の裏面の意思表示欄への記載方法や、家族と話し合っ、意思を表示しておくことの大切さを呼びかけています。【150秒】



保険証への意思表示

医療機関での放映にご協力をお願いします。

免許証のウラで意思表示

漫画家の弘兼憲史氏（代表作：島耕作シリーズ）にご協力いただき、運転免許証裏面の臓器提供意思表示の認知・促進ポスターを作成しました。

ポスターの掲示にご協力いただける方は、下記までお知らせください。



携帯電話やパソコンから臓器提供の意思を登録しましょう！

ホームページ

<http://www.jotnw.or.jp>

モバイルサイト

<http://www.jotnw.or.jp/m>

携帯電話、パソコンから臓器提供に関する意思の登録が可能です。登録後、IDの入った登録カードが発行され、本登録が完了すると、臓器提供の際に本人意思を確認する対象となります。

臓器移植に関するお問い合わせ先

〒107-0052 東京都港区赤坂2-9-11 オリックス赤坂2丁目ビル2階

フリーダイヤル ☎ 0120-78-1069

<http://www.jotnw.or.jp> にもさまざまな情報が掲載されています。



(社)日本臓器移植ネットワーク

臓器を提供してもよいという人(ドナー)やその家族の意思を生かし、臓器を提供してもらいたいという人(レシピエント)に最善の方法で臓器が贈られるように橋渡しをする日本で唯一の組織です。

<http://www.jotnw.or.jp/m>

●医療機関の皆様へ

脳死後でも心停止後でも、ご本人の意思が不明な場合、ご家族の承諾で臓器が提供できるようになりました。ドナー情報には、24時間対応しております。

ご本人の臓器提供を希望する意思表示があるか、ご本人の意思が不明な場合に、ご家族が臓器提供について説明を聴くことを希望されましたら、下記フリーダイヤルにてお知らせください。

ドナー情報用全国共通連絡先 ☎ 0120-22-0149



20年以上の間できなかったことに
チャレンジして
明るく生きていきます。

Title:ベガサス 作者名:ナスチャクレマー Age:10 ロシア



この紙の絵は、「子供地球基金」により提供された画材等で世界中の子供達によって描かれたものです。



私は数年前、両肺移植手術を受けました。

はじめに、
ドナー様とドナーのご家族の皆様の

崇高な意思に、心から感謝申し上げます。

進行する病

気管支拡張症と言われてから何年か後、出産を経験し、下の子が小学校に入った頃から急激に息が苦しくなりました。頭がガンガンしたり、ちょっと動くだけでも苦しくて…。でも、その時はまさか血液中の酸素が薄くなっているためとは思っていませんでした。小さい子供がいるので、病院で診断を受けるのがとても恐かったのですが、実家の母に付き添ってもらい、病院へ行きました。その場で「右心

不全」と診断され、そのまま入院となりました。夏休みだったので、子供達は母に預けていたのですが、主人が土日の休みに私と子供達の間を往復してビデオで元気な様子を見せてくれたり、手紙のやりとりしてくれたおかげで励みになり、どうにか辛い入院生活を頑張ることができました。退院後は、24時間鼻カニューラをして在宅酸素療法に入りました。初めの頃は1分間に1ℓを吸っていましたが、だんだんと1.5ℓ、2ℓと増えていき、とても不安な毎日でしたが、家族の助けを借りて家事も最低限頑張っていました。熱を出して肺炎をおこし、入院することも何度もあり、これ以上悪くならないように祈るような気持ちで毎日を送っていました。しかし、息苦しさは日に日にひどくなる一方で、ある日、いつもの病院で診察を受けた時、あまりにも酸素の数値が低いので、すぐに救急車で別の病院に搬送されました。その後3日ほどして、先生に「もう移植しかありません」とはっきりと告げられました。

葛藤

家族に病院に来てもらい詳しい説明を受けましたが、何日間か自分のことと受け止められず、ふわふわした気持ちで病室にいました。2回目の説明では、移植の方法には生体移植と脳死移植の2通りがあるものの、家族の中に血液型が合う者がいないため、家族からの生体移植という選択肢は無いことを聞き、ホッとして胸をなでおろしました。しかし、その後の詳しい検査で、私はDNAを2つ持っていることがわかりました。B型97%とAB型3%のAB型キメラ、というものでした。2卵性双生児の場合、よく起こるそうです。B型からもAB型からも移植可能なため、先生に「ご家族の方から生体移植が可能ですよ」と言われてしまい、嬉しさよりショックでした…。



酸素療法していたころ(主人の母と)
白根山にて



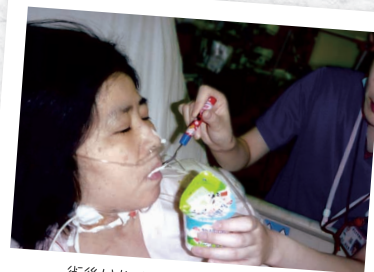
主人と子供達も「良かったね、これで早く手術ができるよ」と言ってくれたのですが、私は泣きながら「絶対にイヤだ、みんなの体を傷つけて、健康な体を切り刻んでまで元気になるなんて…」と小さな声で訴えていました。手術が成功する確率が絶対ではないし、もしかして皆の体の健康が損なわれるだけの結果になってしまうのではないかと恐かったのです。でも、脳死移植にしても、家族は守りたいからといって他の人の死に頼ってよいのだろうか？と、簡単に決断できずにいました。そうしている間にも苦しさは増していき、トイレに行くだけでも動くのが苦しく、朝を迎える毎にぼっとしていました。ある日の夜中、息苦しさから酸素のスイッチを替えたくて手を伸ばしたのですが届かず、必死に大きく息をしたのですが苦しさは治まらず、隣の部屋で寝ている娘に「助けて」と小さく叫びました。しかし、小さな子供が横で寝ているので起こしてはかわいそうだと思い、それ以上声を出すことをためらいました。その後、「生きたい、苦しいのはイヤだ」という強い思いが沸いてきて、移植手術を受けるため、日本臓器移植ネットワークに移植希望登録をする決心をしました。53歳の時でした。

元気になることを信じて

日本臓器移植ネットワークへは、AB型キメラと言うことで、B型ではなく待機人数の少ないAB型で移植希望登録をしました。たった3%しか合っていないで移植された肺は大丈夫なのか？と、とても不安でしたが、主人とふたりで話し合って決めたことでした。「きっと大丈夫だよ、かけてみよう。信じてみよう。」と…。そして、登録完了後10日後に、「移植できます。どうしますか？15分以内に返事を下さい。」と電話があり、急いで主人に連絡をしました。その日は運良く近くにいたため、すぐに帰って来てくれて、あわただしく仕度をして病院に向いました。こわいとか、不安な気持ちは不思議なくらいなくて、車の中では病院に何時に着けるか？というのを考えたり、母に電話をしたりしていました。病室に入ると外にきれいな景色が見えて嬉しかったことを憶えています。職場からかけつけてくれた息子と主人と3人で穏やかな夜でした。

一進一退のリハビリ生活

20時間以上かかった手術も無事終了し、その後ICUに移りました。ICU生活は1ヶ月以上にもなり、酸素マスクをしているので話すことができず、ベッドの上だけの毎日でした。不思議なことに耳も聞こえづらくなってしまい、意思の疎通ができず、私だけでなく、まわりの人達も大変だったと思います。呼吸のリハビリも本当に辛くて苦しく、泣きながら必死でした。手術をすればすぐ自分で呼吸もできると思っていたので、移植手術の大変さをこのとき身にしみて実感しました。厳しいリハビリも何日かたって実を結び、酸素マスクも外することができるようになり、「さあ、もっと頑張って一般病棟へ行くぞ」と思ったのもつかの間、再びうまく呼吸できなくなり、気管切開することになってしまいました。再び話すことができないう日々が続く、水さえも飲むことができず、辛かったのですが、その後どうにか流動食が口から食べられ



術後はじめての食事(ヨーグルト)
しかし気管に入ってしまう、すぐあおすけ…

るまでになり、一般病棟に移ることができました。同室の人達の元気に動いている姿を見て、私も早くあんな風に動きたいと強く思うようになり、リハビリを頑張ることができました。同室の人達や、先生、看護師さん、移植コーディネーターさん、リハビリの先生、家族にも励まされて、必死に頑張り、退院の日を迎えた時は嬉しくて嬉しくて。移植を受ける前、病院に来た時は酸素ポンプを引いて車椅子に乗っていたのに、こうしてポンプも持たず自分で歩いて帰れることが信じられないくらい、嬉しかったです。新鮮な外の空気を思いっきり胸に吸い込んで車に乗り、家へ帰ることができるんだとワクワクしました。

みんなに支えられて

退院後、2ヶ月もたないうちアスペルギルス症と診断され、2週間位入院をしました。土の中や大気中にある菌が体に入って感染症を起こしたことが原因でした。この時、免疫抑制剤の副作用である「感染にかかりやすくなる」ということを改めて感じ、今は術後の管理の大切さをしっかり心に留めながら生活しています。

入院中も手術後もそばで見守ってくれた主人は私よりも大変だったと思います。毎日4回の面会時間には必ず来てくれて、何回か夜の面会の後に自宅に戻り娘達を連れて来てくれて、次の日の朝もいつものように面会に来てくれました。本当にまわりの人達みんなに助けられて今こうして元気に過ごすことができています。

孫達とも一緒に走ったり、キャッチボールをしたり、ボーリングできるようになりました。階段の上り下りも、楽にできます。大好きな京都への旅行も、今年は孫達も一緒に行くことができました。清水寺のあの長い階段もスタスタと歩くことができたのです！そんな私の姿を見て、家族のみんなが心から喜んでくれました。これからは、20年以上の間でできなかったことに少しずつチャレンジして、前向きに明るく生きて行こうと思っています。

ドナー様、ドナーのご家族の皆様、
本当に、ありがとうございました。



退院当日の夜



家族との京都旅行